

# 「はだしのゲン」英訳で交流

京都外国語大（京都市右京区）で16日、平和を考えるワークショップが開かれ、学生、教員、留学生と広島県の中高生が、原爆がテーマのマンガ「はだしのゲン」を英訳するな

として交流した。

「平和・人権・環境」を掲げる私立<sup>えいしん</sup>盈進中・高校（広島県福山市）と、「言語を通して世界の平和を」を建学の精神とする京都外大は、2017年3月に連携協定を締結。今月17日の大学のオープンキャンパスに合わせ、中高の生徒約30人が訪

## 広島の中高生と平和考える

### 京都外大

れた。ワークショップ画した。

は、京都外大国際言語平和研究所の客員研究員で「被爆者証言の世界化ネットワーク」(NETIGTAS)代表の長谷邦彦さんが企画した。ワークショップは、京都外大国際言語平和研究所の客員研究員で「被爆者証言の世界化ネットワーク」(NETIGTAS)代表の長谷邦彦さんが企画した。

委員に高校生代表団の一員として参加。平和首長会議主催のユースフォーラムで広島、長崎の惨状と核兵器廃絶を訴えた。この日は冒頭に、馬屋原さんがシュネープで行ったスピーチを披露。その後、京都外大の学生、教員、留学生

を交え、グループに分かれて「はだしのゲン」の英訳と和訳に挑戦し、英語や広島弁を教え合うなど交流を楽しんだ。

盈進高1年、岡崎華乃さん(15)は「将来はホテルのコンシェルジュになりたいので、外国からの留学生と話ができるうれしかった。平和について語れる人が少なくなっている中、広島に住み、原爆の勉強をしている私たちが伝えていきたい」と話した。【菅沼舞】



京都外国語大の留学生と「はだしのゲン」の英訳・和訳に挑戦する広島県福山市の盈進中・高校の生徒たち。京都市西京区の京都外国語大で